

家庭、技術・家庭 生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成を目指す題材構想のポイント

生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育むためには、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決方法を考え、計画、実践、評価・改善するという一連の学習過程の中で、生活の営みに係る見方・考え方を働かせたり、実践的・体験的な活動をしたりする場を計画的に設定するなど、学習内容の充実を図ることが大切です。

指導例

小学校第6学年 内容B 衣食住の生活 題材名「わが家のクリーン大作戦」（6時間）

〈題材の目標〉

日常生活でよく使う場所の掃除を通して、住まいに関心をもち、工夫して身の回りを快適に整えることができるようになります。



視点の共有

掃除の必要性を問うことで、児童から「健康な生活を送るため」、「気持ちよく生活するため」などの発言を引き出し、題材を通して働くさせたい視点「健康・快適・安全」の共有を図ります。

視点の意識付け

今後、課題の解決に向けて見通しをもったり、個や集団で検討したりする場面で、常に共有した視点に立ち返るよう意識付けを図ります。

実践的・体験的な活動の設定

学校や家庭での調査を生かしながら、汚れに適した掃除方法を試行させるなど実践的・体験的な活動を設定し、汚れの除去効果を実感できるようにします。

振り返る活動の充実

実践を通して感じた疑問を取り上げ、知識を相互に関連させることで「健康・快適・安全」だけでなく、環境面などの視点からも振り返ることができるようにします。また、掃除中の様子を記録させたり、タブレット端末等で掃除前後の状態を撮影させたりするなど取組状況を可視化することで、児童が客観的に評価し、改善すべき点がないか検討できるようにします。



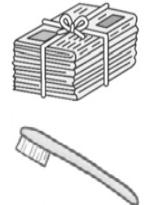
家庭との連携

掃除が必要な場所について、家族と検討する機会を設定することで、家庭での実践に向けて新たな問題意識をもたせ、主体的に計画立案できるようにします。



家庭での実践に向けた話し合い

課題の解決に向けた掃除の方法等について「健康・快適・安全」の視点から意見交流させ、身に付いた知識や技能を家庭で活用できるようにします。



関連内容の統合

市販の用具や住宅用洗剤に頼るだけでなく、環境への配慮から、使い終わった物を効果的に利用した掃除に着目させるなど「持続可能な社会の構築」の視点をもたせることで、身近な家庭生活と環境との関わりを実感できるようにします。



一連の学習過程を通して、家庭と連携を図りながら学校で身に付けた知識や技能を家庭で実践できるようにしたり、学びを深めるために他の内容と関連させながら、生活を営むための工夫について検討せたりすることで、学習内容の充実を図りましょう。

※本資料は小学校家庭での活用を想定していますが、中学校家庭分野でも活用できます。